

# 製品安全データシート

作成:2010年 2月 4日

改訂:2010年10月29日

## 1. 製品及び会社情報

整理番号 : KM061-04  
製品名 : ツインターボフェルテラ箱粒剤  
会社名 : クミアイ化学工業株式会社  
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26  
担当部門 : 生産資材部生産業務課  
電話番号 : 03-3822-5180  
FAX番号 : 03-3827-0825  
緊急連絡先 : 同上  
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

## 2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分外
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
	眼刺激性	: 区分外
	皮膚感作性	: 区分外
環境に対する有害性	水生環境有害性・急性	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語 警告

危険有害性情報

- ・水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【予防策】

- ・環境への放出を避けること。
- ・漏出物を回収すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を法、条例に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物

化学名: (E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン

／一般名: クロチアニジン

3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド／一般名: イソチアニル

3-ブromo-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド／一般名: クロラントラニリプロール

成分及び含有量	: クロシアニジン	0.80%
	イソチアニル	2.00%
	クロラントラニリプロール	0.75%
	シリカ	45.0% 《40-50%》
	界面活性剤、鉱物質微粉 等	51.5%

化学式 :  $C_6H_8ClN_5O_2S$  / クロシアニジン  
 $C_{11}H_5Cl_2N_3OS$  / イソチアニル  
 $C_{18}H_{14}BrCl_2N_5O_2$  / クロラントラニリプロール

官報公示整理番号 : 化審法 (5)-6732 / クロシアニジン  
安衛法 8-(7)-1316 / クロシアニジン  
8-(7)-1642 / イソチアニル  
8-(1)-3379 / クロラントラニリプロール

CAS No. : 210880-92-5 / クロシアニジン  
224049-04-1 / イソチアニル  
500008-45-7 / クロラントラニリプロール  
7631-86-9 / シリカ

#### 4. 応急措置

目に入った場合 : 清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら洗浄する。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断を受ける。

吸入した場合 : 被曝者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。速やかに医師の診断を受ける。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で酸素吸入または人工呼吸を行う。呼吸をしながら嘔吐がある場合は頭を横に向ける。意識がない場合は口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。

飲み込んだ場合 : 水で口の中をよく洗浄する。コップ1~2杯の水または牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。直ちに医師の診断を受ける。必要に応じて人工呼吸や酸素吸入を行う。呼吸をしながら嘔吐がある場合は、頭を横に向ける。意識がない場合は、口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。

応急措置をする者の保護 : 救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグル、マスクなどの保護具を着用する。汚染された衣類や保護具を取り除く。

#### 5. 火災時の措置

消火剤 : 二酸化炭素、粉末、乾燥砂(初期火災)、泡消火剤、水噴霧(大規模火災)

特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素の他、窒素酸化物、硫黄酸化物等の有毒ガスが含まれる恐れがあるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。消火水が河川等に流入しないように気をつける。

特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は可能な限り風上から行う。火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。燃焼または高温により有害ガス(一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等)が発生する恐れがあるので、呼吸用保護具を着用する。容器周辺が火災のときは、容器を安全な場所に移動する。移動ができないときは、容器に注水して冷却する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。

消火を行う者の保護 : 消火作業は風上から行き、有害なガスの吸入を避ける。必ず適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

作業者に対する注意：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ミスト、ガスを吸入しないようにする。風下の人を退避させ、風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境影響に対する注意：漏出物を河川や下水に流してはいけない。

流出物の処理に対する注意：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。適切ならば、粉塵を防ぐためにまず湿らせる。真空で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で回収する。汚染した箇所を洗剤と水でよく洗浄する。洗浄水は全て密閉できる容器（廃棄物入れ）に回収する。（処分は「廃棄上の注意」の項に従って行う。）

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：換気のよい場所で取扱う。屋外で取扱う場合は、できるだけ風上から作業する。取扱い場所には関係者以外の立入りを禁止する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼および身体洗浄を行うための設備を設置する。着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用して取扱う。休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔などをよく洗い、うがいをする。また、休憩場所には汚染された保護具を持ち込んではいならない。手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。

容器を転倒、落下させる、引きずるまたは容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。全体換気設備のあるところで取扱う。

火災・爆発の防止：周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。加熱したり、摩擦、衝撃を与えない。工具は火花防止型のものを用いる。

保管上の注意：直射日光を避け、冷暗所に保管する。容器を密閉し、異物の混入を避けて、通気のよい場所に保管する。通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。可燃物を近くに置かない。火気、熱源より遠ざける。

## 8. 暴露防止措置

管理濃度：未設定

許容濃度：日本産業衛生学会（2008年度版）及びACGIH（2008年度版）のいずれも設定されていない。

設備対策：取扱いの際はできるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を使用する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗身シャワー、手洗い、洗眼を行うための設備を設ける。

保護具 呼吸用保護具：防塵マスク

保護手袋：不浸透性手袋（ゴム手袋）

保護眼鏡：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

保護衣：保護服、帽子、ゴム等の前掛け、長靴

## 9. 物理・化学的性質

外観等

物理的状態	: 固体
形状	: 細粒
色	: 類白色
臭い	: 情報無し
pH	: 10.2(農林水産省告示第71号による方法)
引火点	: 情報無し
燃焼限界—上限(%)	: 情報無し
燃焼限界—下限(%)	: 情報無し
比重(相対密度)	: 1.04(見掛け比重)
溶解性	情報無し
その他のデータ	特に無し

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。

危険有害反応性	: 情報無し
避けるべき条件	: 情報無し
混触禁止物質	: 情報無し
危険有害な分解生成物	: 燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等が発生する恐れがある。

#### 1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	: ラット(♀) LD <sub>50</sub>	>2000 mg/kg 以上
急性毒性（経皮）	: ラット(♂ ♀) LD <sub>50</sub>	>2000 mg/kg 以上
皮膚刺激性	: ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	: ウサギ	極軽度の刺激性あり
呼吸感作性	: 情報無し	
皮膚感作性	: モルモット	感作性なし
生殖細胞変異原性	: 情報無し	
発がん性	: 情報無し	
生殖毒性	: 情報無し	
特定標的臓器・全身暴露（単回暴露）	: 情報無し	
特定標的臓器・全身暴露（反復暴露）	: 情報無し	
吸引性呼吸有害性	: 情報無し	
その他のデータ	: 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないように本田水管理に注意する。	

#### 1 2. 環境影響情報

生態毒性 魚	: (コイ)LC <sub>50</sub>	>1000 mg/l (96時間)
甲殻類	: (オオミジンコ)EC <sub>50</sub>	1.0 mg/l (48時間)
藻類	: ErC <sub>50</sub>	>1000 mg/l (72時間)
残留性/分解性	: データなし	
生体蓄積性	: データなし	
土壤中の移動性	: データなし	

#### 1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

#### 1 4. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

##### 国際規制

国連分類	: クラス9(有害性物質)
国連番号	: 3077(環境有害物質、固体)
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 該当
国内規制	: 輸送に関する国内法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

#### 1 5. 適用法令

農薬取締法	: 登録番号 第22708号
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 第57条の2(通知対象物質):シリカ(政令番号312)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 非該当
毒物劇物取締法	: 非該当

#### 1 6. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。  
使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献：1) J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 G H S に基づく化学物質等の分類方法  
2) 農薬中毒の症状と治療法 第12版 平成20年3月 農林水産省農蚕園芸局

#### 作成部署以外の連絡先

(財団法人) 日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	072-726-9923
つくば(毎日9時~21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。